

公園をみる・観る

= トリの渡り 秋の便り =

今年も暑い夏だった。昨夏も酷暑だったと記憶しているが、昨年の比ではなく、温度計の目盛りは連日グングン上昇し7月25日には38.8度という全国でも最高の気温をマークした。その後も連日35度越えの厳しい暑さが続き、熱中症で救急搬送される人が多発した。公園の生き物達も身をかがめて暑さに耐えているように見えた。しかし今夏はこの身を焼くような暑さのためか、蚊を見なかった。余りの暑さに蚊も血を吸うどころか飛びまわる元気もなかったのだろう。

9月、涼風が吹き始めた。葦原で留鳥セッカの幼鳥(たぶん)が「チュ チュ」と鳴き遊ぶ中北からの渡り鳥たちがやってきて公園はにわかに生氣を取り戻したようだ。シギ・チドリ類、ヒタキ類、ムシクイ類などなど賑やかになった。下旬、すっきり晴れ上がった秋空をハチクマが渡っていく。彼らは五島列島から東シナ海を飛び中国大陸からインドネシア方面までいくのだそうだ。大型台風24号が日本に接近中のいま、無事に渡りを終えて欲しいと願う。淡水池ではシマアジ、ヒドリガモ、オオバンなどの常連が集い、環境省の絶滅危惧Ⅱ種に指定されている水草、リュウノヒゲモを元気に食べ漁っている。リュウノヒゲモって龍の髭に似ているので命名されたいが、龍の髭って？ 第一、龍って架空の生き物でしょう。誰が龍をみて、池の中の藻を見て、龍の髭に似ているなんて言い始めたのだろうか？ 山と溪谷社の「野に咲く花」図鑑によるとジャンノヒゲ(蛇の髭)という野生植物があり別名をリュウノヒゲとよぶとある。その野生植物に似た藻だからリュウノヒゲモとなったのだろうか。まてまて、龍はさておき蛇に髭ってあったっけ？ ますます混乱する私なのだ。(土×土)

Kさんの、あんなとりこんなとり

カシャカシャという物音と ギャーハハハハ！！とけたたましい笑い声をたてていたのは一羽のカラスでした。斜向かいの家の屋根に載っている太陽熱温水器を滑り台に見立て、カシャカシャと音をさせながら斜面を登っては上からおしりで滑り降りるのを繰り返していたのです。

滑り降りたら羽をバタバタさせてギャーハハハハ！自分であみ出した遊びが楽しくてたまらないようでした。知り合いには「ケンケンパ」をして遊ぶカラスを見た人もいます。全身真っ黒な上に、ゴミを荒らしたりするので人間に嫌われがちですが、カラスはそんな遊び好きな面も持っているようです。時々首をかしげてこちらをじっと見てくるカラス、人間に興味津々なのかもしれませんね。

ちなみにカラスには主にハシブトガラスとハシボソガラスがいますが、遊び好きなのはハシボソガラスの方だそうです。



rigaiz